

クローバーグループ連携事業「俳句」…ちやまを詠む…

平成三十年度秋冬（九月～二月）の部 入賞作品

テーマ 「勝山の四季折々」を詠む

選者

福井県俳句作家協会副会長
福井県俳句作家協会幹事

嶋田 洸石
石 畝 千恵子

特選 地図を手に訪う冬の坂花月楼

福井県大野市 石田 礼子

選評

勝山は坂の町と云われる。本町に出るには、「神明坂」「追手坂」「石坂」「おたね坂」等の何れかを下りることになる。当句の「冬の坂」は「おたね坂」を指していると思われる。狭くて窮屈な坂である。雪の時季ともなれば尚更である。「冬の坂」という季語の当て方に拍手。

特選 宇宙へと夢織りあげる星祭り

福井県越前市 馬場 春之

選評

「宇宙」と「星祭」。題材としては同意に近いことから、即き過ぎという評は当然かと思う。但しこの句の場合、中七に「夢織りあげる」という大きなロマンを暗示して成功したとみる。関係者として特に「ゆめおーれ勝山」の方々は大変嬉しい限りの句であろう。

特選 もういいね勝山水菜も背伸びする

福井県勝山市 木下 かおり

選評

上五に「もういいね」という問いかけを配して軽妙さを狙った句。当地ならではの「勝山水菜」を詠んだ句は以外と少ないが、この様なソフトタッチで句にされると、我がことのように嬉しいのも事実である。尚、「水菜も」の「も」の用い方も評価されるべきである。

入選 熱き日の絹と織子のゆめおーれ

東京都国分寺市 車塚 翔太

入選 初しぐれ勝山駅のノスタルジー

福井県福井市 草 笛 雅也

入選 こもれ日に苔の命の光りをり

福井県福井市 西 村 瑞 枝

入選 恐竜もごごえてしまふ雪景色

福井県坂井市 友 重 奈 海

入選 秋風や大佛といふがらんどう

静岡県浜松市 宮 田 久 常

入選 みほとけの深きまなざしごぎ帽子

福井県勝山市 中 村 尚 美

入選は順不同